

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078000108		
法人名	医療法人 十連病院		
事業所名	グループホームじゅうれん		
所在地	福岡県久留米市三潴町西牟田6557-89 (電話)0942-65-1555		
自己評価作成日	平成 28 年 11 月 1 日	評価結果確定日	平成 29 年 1 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、公園の一角にあります。リビングから見える十連公園の景色は、すばらしく地域の皆様の散歩道、憩いの場となっているところでもあります。すばらしい環境の中で鳥のさえずりを聞き四季折々の景色を肌で感じながら散歩コースとして利用しています。地域で過ごしてこられた皆様の今までもこれからも自分らしく【あるがままの生き方】を支援するという理念を大切に支援しています。母体が医療法人ということもあり医療連携のサポートも安心出来ます。職員も母体の内部研修、又外部研修にも参加しスキルアップに努めています。認知症対応型通所介護（共用型）も開設しています。住み替えのイメージも少なく馴染みの関係を作りながら住まいは変わっても地域で暮らす事を大切に地域に根ざしたホームを目指し取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 28 年 12 月 1 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

表通りから少し入った静かな自然豊かな環境に事業所はある。母体法人の病院やデイケアなど関連の福祉施設が隣接をしている。公園の一角にあるため、事業所内の共有空間には南向きに大きな窓があり事業所内から公園の様子や池、木々が眺められ開放的な雰囲気を持っている。地域との連携も一方通行ではなく協働して行事の企画を行う等地域の一員として根付いている。職員が働きやすい環境を整え家庭の事情などに合わせた勤務体制を取っておりチームワークがとれている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様とあるがままの暮らしを理念とし、地域社会の一員として地域のなかで暮らしていることを認識し、玄関先に理念をあげ実践にむけて努力している。	「地域の皆様とあるがままの暮らし」という理念があり、職員が常に目にできるように玄関に掲げている。地域と利用者が交流ができるように地域との連携ができている。事業所と地域と一緒に企画する行事が多くあるなど、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（敬老会、誕生会、夏祭り、清掃）に参加し地域の方へホームの行事などに来て頂くよう呼びかけしている。また中学生の職場体験の受け入れも行い交流を深めている。	自治会に参加をして、事業所の行事の告知など地域へ回覧をしている。清掃活動、夏祭り、敬老会へ参加し、事業所主体の行事への参加を地域へ声を掛けている。保育園との交流や中学生の職場体験も受け入れており、地域の方からのおすそ分けやお花を頂くなどの間がらが作られている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	尚寿会の誕生会に参加し、認知症予防、血圧測定、健康管理についてのお話を行ったり、関わり方対応についての相談にのったり、事例を通して勉強会をしている。学生の体験学習やボランの受け入れも積極的に行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度自治会、民生委員、尚寿会、包括支援センター、行政職員を交え事業所の活動状況や日々の様子をスライドショーで紹介しご意見やアドバイスを頂きながら、サービスの向上に努めている。時には、介護保険から認知症についてまた高齢者の健康管理についての講師を招き情報提供も行っている。	運営推進会議は2か月に1回開催しており、利用者の状況をスライドショーで見ってもらう等現状報告、消防訓練時のチェックの仕方を指導してもらうなど運営や介護の質の向上に活かしている。反対に参加者より相談を受けて助言したり、講師を依頼しての研修会の場にもなっており情報提供もできている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員、包括センターの方に参加して頂き最新の情報を頂いたり、事業者の実情を説明しどのような対応がよいのか気軽に相談している。	運営推進会議以外でも自分たちの判断では難しい事象が発生した時は、包括支援センターや、市の介護保険課へ電話等による相談連絡は常に行っている。介護教室をしてほしいなど依頼があると、企画をするなど協力体制をとっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み、外部研修にも参加し全職員の拘束について学ぶ機会を作り意識づけしている。マニュアルも準備している。	玄関は日中は自由に出入りでき、利用者が郵便物を取りに一人で出ているときもある。玄関近くにセンサーがあり落ち着いた利用者がある時は一緒に散歩やドライブをするなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し全職員が学ぶ機会を作っている。メディアの報道など職員間で話、日々虐待防止の意識づけを行っている。職員のストレスチェックを実施し心身の状態把握に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もあり、関係機関の方と勉強させていただいている。施設内にパンフレットを用意したり、運営推進会議においても説明したりしている。内部、外部研修にも参加し全職員が学ぶ機会を作っている。	制度に関しては契約時や運営推進会議で利用者・家族等へ説明を行い、パンフレットを事業所内に用意している。実際に成年後見制度を利用した時には手続き方法や経過についてその都度、職員へ報告をしたり、内部研修や外部研修に参加するなど職員は制度について学んでいる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回相談時から契約にあったてはご家族の希望を伺い本人も同行で見学や遊びに来て頂いている。入居時には、契約書、重要事項説明書、医療連携についても説明し、納得されて確認し同意を戴いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には常に意見を聞くようにしている。家族には面会時や家族会で問いかけている。玄関入り口に、ご意見箱を設置している。介護相談の訪問受け入れも行い、ご意見を戴いたりしている。	利用者が日頃からしたいことが自然に言えている。美容室への外出や外食の希望などその都度実施するなど運営に反映させている。運動会に合わせて家族会を行い、意見を頂くのに口頭だけではなく用紙を参加者全員へ配布し記入してもらうようにしている。また、日常的にも家族の来園時には意向を確認している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会や話し合いで気づきや意見を話し合い、多くの意見を求めたり、自由に検討できる環境作りを行っている。現場職員の意見や提案は大事にしている。	定期的に職員の食事会を催したり、家庭の事情を考慮した勤務体制など常日頃より仕事についての相談はしやすい環境にしている。職員の意見をまずは受け取り実行して再度、検討するなど気づきやアイデアを運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、資格（介護福祉士）を取ったり、外部研修に行きたいと向上心を持っている。結婚、出産後も働けるように職場環境を整え働きやすい環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては、制限は行っていない。面接時にご本人の介護に対する思いを採用条件にしている。勤務時間や休みの希望など働きやすい環境作りを行っている。得意分野が発揮でき生き生きと勤務できるよう支援している。	採用については、性別・年齢等の制限はなく仕事に対する「やる気」を採用条件にしている。家庭の事情があっても仕事が続けられるような配慮や資格を職員全員が取得できており、誰もがその能力を発揮でき安心して働ける職場環境を作っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人において外部より講師を招き人権学習が開催され全職員に意識づけが行われている。	法人全体での内部研修や外部研修に参加した職員の伝達研修を行っている。勤務の都合で研修に参加が困難な場合は研修DVDを職場で見える機会を作るなど職員全員が利用者に対する人権について学ぶ機会があり人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など必要に応じ参加を勧めている。働きながら資格が取れるように又研修が受けられるように機会をつくっている。現在では介護福祉士、看護師の資格保持者である。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会や福岡県グループホーム協議会に加盟し研修会や情報交換を行っている。また包括会議においてもグループホーム交流会が定期的開催されており、同業者同士相談したり、サービスの向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の意向を確認し詳細に情報収集を行い安心出来るよう環境を作っている。又二人だけの時間を作り個別対応をし本人の思いをしっかりと聞いてあげることで馴染みの関係を作るように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が希望されている理由や困っていることをしっかりと面談の機会を作り話を聞くことで安心して任せてもらえるように努めている。職員全員で共有し、お互い情報交換しながら対応方法もご家族と話し合い信頼関係を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時グループホームはもちろん各サービスの説明を行っている。必要に応じ他のグループホームへ見学も勧めることもある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に生活しているという基本を大事にし、できない部分を手伝うようにしている。得意分野は腕を振るって戴いたり教えて頂いたり共に支え合う。一緒に生活しているという関係に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便りを通し生活状況を伝えている。面会時には、日頃の様子をお伝えしている。家族と共に楽しめるようにイベントを開催したり日頃の状況をスライドショーでお見せしたり、ご家族で楽しいひと時を過ごす絆を絶やさないように支援している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の希望に応じ、自宅まで外出したり、入居前の馴染みの場所まで出かけたりしている。一人暮らしの方はご家族の了解のもと自宅の鍵を持っているため、自由に行き来出来過せるように今後も大事に支援していきたい。	利用者が地域との関係を継続できるように職員は利用者・家族から馴染みの人や場所について話を聞いている。自宅へお弁当を持って行き数時間過ごす事や、知人へ年賀状、暑中見舞いを出す支援を行う等、親戚が尋ねてくるなど関係が継続できるように支援をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしのなかで築いた人間関係は尊重し、仲のよいご利用者同士 席を配慮している。又職員も一緒にお茶を飲んだり、皆が穏やかな日々が過ごせるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設事業所や他施設に行かれてもその生活状況を面会に行ったり、状態を聞いたりしている。現在でも関係が続いて遊びにこられたり相談にこられるご家族もある。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご家族から希望や意向をお聞きし御利用者とは日々生活しながら把握に努めている。本人の意志が伝えられない方は、表情や動作などで把握しご家族と相談しながら本人の思いを尊重し対応している。	日頃から、利用者の会話や様子から好みや希望を汲み取るようにしている。玄関をよく見ているときには、一緒に散歩に行ったり、希望の食べ物をメニューに取り入れたりしている。また、家族に利用者の生活歴や好みを聞いて参考にしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より生活歴の情報を頂き日々の生活の中から確認しながら生活支援を行っている。知人、親類等面会時に情報を得られるように声かけを行いお話しさせていただいている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態は申し送りノート、個人記録で共有できるようにしている。生活の質の向上を目指している為、日々の変化の記録を大切に努力している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく生活するという基本を大切に本人、ご家族の要望を聞き他職種と検討を行い意向が反映された介護計画を作成している。介護計画の実施状況の記録を基にカンファレンス、モニタリングを実施している。	介護計画は6か月に1度見直している。利用者や家族の希望、医師等の関係者の話を聞きながら、利用者の担当職員が作成し、職員全員で検討している。計画には、利用者の希望する生活のしかたなども盛り込まれている。家族へ介護計画の同意をもらいに自宅へ訪問する際は、利用者を連れていくこともある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子やケアプラン実施状況など記録されている為、日々の変化がカンファレンス、モニタリングに生かされよいケアが提供できるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向、状況に応じ対応を行っている。医療法人併設の為、医療連携も万全であり、ご希望により看取りの生活にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長、民生委員、保育園等の日々の生活の中で交流ある。日々の散歩を通じご近所の方々により気軽に声かけ頂いている。なお地域住民のひとりとして生活しているとの思いで支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入居時にかかりつけ医について家族と相談しており、希望に応じて、かかりつけ医との連携を行っている。	利用者や家族の希望する病院をかかりつけ医としている。利用者と家族と職員と一緒に病院へ行き、医師と話をしている。遠方の病院へは家族に協力をしてもらっているが、その場合でも結果を聞き、情報を共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常駐しているので常に健康管理や状態変化を報告し対応できる体制にあり気軽に相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供を行い安心して入院治療が出来るように支援している。入院時には、訪問し情報交換を行うようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には入居時に意向を尋ね重度化に伴いその都度話し合いを行っている。ホームで最期まで希望される家族も多く、家族や馴染みの職員の中で最期を迎えられる方も増えてきている。併設病院との協力体制も確保している。	重度化について、利用開始時に説明し、利用者の状況に応じその都度説明を行っている。以前看取りをした際は、いつでも家族との時間を過ごせるように配慮し、居室内にベッドを入れて家族が泊まれるように支援した。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応出来るように酸素や吸引器を常備し、また急変時の対応マニュアルを整備している。法人内での研修やグループホーム勉強会時に（AED、心肺蘇生法）の使用法について定期的に行い学ぶ機会を設け実践を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人独自の地震、水害時の想定したマニュアルがある。年2回火災を想定した訓練を行い、地域の方の参加も見られる。非常食、オムツ、ペーパー類の備蓄も整えている。	年2回、避難訓練をしており、夜間を想定した訓練も行われている。また、消防署から事業所での訓練を依頼されることもある。非常食や備品は事業所内に保管されており、災害後すぐに建物から避難することも想定して、事業所内保管分から1日分を袋に詰めて持ち出せるようにしている。また病院の地下にも保管している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報同意書を作成し、家族に個人情報に関する対応について承諾を頂いている。一人ひとりの人格を尊重し、生活歴を踏まえ、自尊心を傷つけない対応声掛けを行っている。無理強いしない言葉や態度、不愉快にさせない言葉かけなど、特に心かけている。	利用者への声掛けは小さい声でゆっくり話しをするようにしている。また普段から嫌なことを言わないようにしており、個人的な話題は話をしないように気を付けている。声掛け等で気づいたことがあった際には、職員で話し合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人とゆっくり向き合い話をする時間を大切にし本音や希望を言える雰囲気を作ること又安心してスタッフにわがままを言えるような関係づくりに努めている。スタッフや家族の意見を押しつけず意見が決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを最優先し無理強いせず言葉掛けや見守りで利用者のペースに合わせた支援に努めている。在宅生活の延長でありたいとの思いで支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣を大切に、毎日欠かさずお化粧を続けている方もある。自分で出来なくなった方も家族の思いを大切にスタッフがお化粧をして差し上げている。外出や誕生日等特別な日には、おしゃれをされたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きメニューへ取り入れ、一人ひとりの状態に合わせた形態や食欲がでる色彩等にも気を付けている。出来る方にはテーブル拭き、お茶入れ、食材の皮むきなど手伝っていただいている。	食事は、栄養士が作成し、職員が作っている。食事をとり分けるなどの準備を利用者と一緒に行っている。利用者と職員が同じテーブルで同じものを食べている。買い物には利用者と一緒に行っている。食べたい物の希望があった場合は、メニューを変更し対応している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた量や病状による食事量、味付け等細やかに対応している。食事、水分摂取量の把握に努め、入りが悪いときには、口に合う別メニューを用意したり、飲み物を用意確保している。ミキサーやトロミで対応することもある。状況により栄養士にアドバイスを受けることもある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い一人ひとりに合わせた見守りや介助を行っている。義歯の方は外して磨くように声かけしたり、汚れが落ちているかチェックを行い、上手に出来ない方には、最後に仕上げを行い清潔保持をしている。必要に応じ歯科医の訪問指導を受けられる体制にある。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、本人のサインを見逃さないようにしている。気持ちよい排泄が出来るよう検討している。	排泄チェック表で利用者の状況を把握しており、定期的に声掛けをしている。また、一人ひとりのサインを理解し、気づいたら声掛けをしてトイレへ誘導している。自立している利用者への声掛けには特に気を付けており、気持ちに寄り添い支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は乳製品や野菜、食物繊維類、を多く取り入れ水分確保、適度な運動を心がけ便秘予防に努めている。毎日排便チェックを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご利用者の健康状態を鑑みながら入浴支援を行っている。一人ひとりの季節毎に入浴剤、バラ湯を利用したり、ゆっくり入浴して頂き、コミュニケーションをとるよい時間となっています。汚染時など臨機応変に対応している。	朝から毎日入浴できるように準備している。ゆず湯など準備し、ゆっくり過ごせるように工夫している。入浴を拒否する利用者へは、声掛けを工夫したりして促しており、入浴すると気持ちよく過ごされている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は生活習慣や体力に合わせ、レク、散歩などをして過ごして頂き夕食後は就寝へむけての環境作りを心がけ温かい飲み物の提供やゆっくり話を聞いたりしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し職員が入居者一人ひとりの内服している薬の変更や臨時薬の処方、処置内容等を記載し情報の共有を行い状態観察をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に情報を頂き料理、裁縫、編み物など得意分野での力を発揮できるように場面作りをしている。外出、ドライブ、散歩にて気分転換している。お茶は、本人希望でコーヒー、紅茶、緑茶などセレクト提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣の公園へ、季節を楽しめるよう外出を行っている。本人希望にて買い物支援も行って、顔なじみの方から花など頂くこともある。	天気の良い日には事業所の前の池の周りを散歩している。コスモスが咲くところに東屋もあり、おやつや飲み物を持って行って楽しむこともある。うなぎを食べに行ったり、寺社や足湯など利用者の希望する場所へドライブに出かけたりしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持ちたいと希望される方は、居室にて自己管理をしていたりしている。バスハイク、外食時には、自分で支払いをされている。買い物の希望があれば、個別に対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は自由にかけて頂き遠方でなかなか面会できない家族には、定期的に電話を依頼し交流を絶やさないようにしている。年賀状や暑中見舞、ホーム便りを送り近況報告を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには季節の花や季節に合わせた入居者様の作品を飾り、窓から外を眺めることで季節感を感じられるようにしている。バルコニーにも季節を感じられるように花を栽培している。ホール内では、ソファや椅子等好きな場所へ座って頂き、居心地よく過ごせるよう工夫を行っている。	共用空間は広く、南向きに面しているため明るい雰囲気である。壁には外出時やイベントの際の写真も多く飾っており、利用者や面会に来た家族が見て楽しめるようにしている。利用者と一緒に写真を切ったり、飾りを作ったりしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはこたつを配置し自由に横になれるような共用区間を作り仲良しの入居者様同士のんびりと過ごせるようにしている。ソファやテラスにもテーブルや椅子を設置しいつでも利用できるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具を持ちこんで頂いたり、家族の写真や季節の花を飾ったりと好みに応じ自由に居室内をアレンジし居心地良く過ごせるように配慮している。	居室は、利用者の思い入れのある家具や仏壇が持ち込まれている。家族の写真なども飾られており、居室でもくつろげるように利用者が好きなものを置けるようにしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は入居者の方の状況に合わせた配置を行い、全面バリアフリーとなっており廊下には手すりを設置したり、車椅子自走も安全に行えるように十分なスペースも確保している。トイレも出来るだけ自立した生活ができるように配慮している。ADLの変化に合わせ検討するようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所は地域の皆様とあるがままの暮らしをという介護理念のもと職員と日々振り返り意識しながら実践に向け努力している。地域、家族との関係を大切にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（敬老会、誕生会、夏祭り、清掃）に参加し地域の方へホームの行事などに来て頂くよう呼びかけしている。また中学生の職場体験の受け入れも行い交流を深めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	尚寿会の誕生会に参加し、認知症予防、血圧測定、健康管理についてのお話をしたり、関わり方対応についての相談にのったり、事例を通して勉強会をしている。学生の体験学習やボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度自治会、民生委員、尚寿会、包括支援センター、行政職員を交え事業所の活動状況や日々の様子をスライドショーで紹介しご意見やアドバイスを頂きながら、サービスの向上に努めている。時には、介護保険や認知症についてまた高齢者の健康管理について等講師を招き情報提供も行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員、包括センターの方に参加して頂き最新の情報を頂いたり、事業者の実情を説明しどのような対応がよいのか気軽に相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み、外部研修にも参加し全職員の拘束について学ぶ機会を作り意識づけしている。マニュアルも準備している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し全職員が学ぶ機会を作っている。メディアの報道など職員間で話、日々虐待防止の意識づけを行っている。職員のストレスチェックを実施し心身の状態把握に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もあり、関係機関の方と勉強させていただいている。施設内にパンフレットを用意したり、運営推進会議においても説明したりしている。内部、外部研修にも参加し全職員が学ぶ機会を作っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあつたてはご家族の希望を伺い本人も同行で見学や遊びに来て頂いている。入居時には、契約書、重要事項説明書、医療連携についても説明し、納得されて確認し同意を戴いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には常に意見を聞くようにしている。家族には面会時や家族会で問いかけている。玄関入り口に、ご意見箱を設置している。毎月介護相談の訪問受け入れも行き、ご意見を戴いたりしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会や話し合いで気づきや意見を話し合い、自由に検討できる環境作りを行っている。現場職員の意見や提案は大事にしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、資格（介護福祉士）を取ったり、外部研修に行きたいと向上心を持っている。結婚、出産後も働けるように職場環境を整え働きやすい環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては、制限は行っていない。面接時にご本人の介護に対する思いを採用条件にしている。勤務時間や休みの希望など働きやすい環境作りを行っている。得意分野が発揮でき生き生きと勤務できるよう支援している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人において外部より講師を招き人権学習が開催され全職員に意識づけが行われている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など必要に応じ参加を勧めている。働きながら資格が取れるように又研修が受けられるように機会をつくっている。現在では介護福祉士、看護師の資格保持者である。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会や福岡県グループホーム協議会に加盟し研修会や情報交換を行っている。また包括会議においてもグループホーム交流会が定期的開催されており、同業者同士相談したり、サービスの向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の意向を確認し詳細に情報収集を行い安心出来るよう環境を作っている。又二人だけの時間を作り個別対応をし本人の思いをしっかり聞いてあげることで馴染みの関係を作るように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が希望されている理由や困っていることをしっかりと面談の機会を作り話を聞くことで安心して任せてもらえるように努めている。職員全員で共有し、お互い情報交換しながら対応方法もご家族と話し合い信頼関係を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時グループホームはもちろん各サービスの説明を行っている。必要に応じ他のグループホームへ見学も勧めることもある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に生活しているという基本を大事にし、できない部分を手伝うようにしている。得意分野は腕を振るって戴いたり教えて頂いたり共に支え合う。一緒に生活しているという関係に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便りを通し生活状況を伝えている。面会時には、日頃の様子をお伝えしている。家族と共に楽しめるようにイベントを開催したり日頃の状況をスライドショーでお見せしたり、ご家族で楽しいひと時を過ごす絆を絶やさないように支援している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の希望に応じ、自宅まで外出したり、入居前の馴染みの場所まで出かけたりにしている。一人暮らしの方はご家族の了解のもと自宅の鍵を持っているため、自由に行き来出来過させるように今後も大事に支援していきたい。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士又職員も一緒にお茶を飲んだり、皆が穏やかな日々が過ごせるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設事業所や他施設に行われてもその生活状況を面会に行ったり、状態を聞いたりしている。現在でも関係が続いて遊びにこられたり相談にこられるご家族もある。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご家族から希望や意向をお聞きし御利用者と日々生活しながら把握に努めている。本人の意志を伝えられない方は、表情や動作などで把握しご家族と相談しながら本人の思いを尊重し対応している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より生活歴の情報を頂き日々の生活の中から確認しながら生活支援を行っている。知人、親類等面会時に情報を得られるように声かけを行いお話しさせていただいている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態は申し送りノート、個人記録で共用できるようにしている。生活の質の向上を目指している為、日々の変化の記録を大切に努力している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく生活するという基本を大切に本人、ご家族の要望を聞き他職種と検討を行い意向が反映された介護計画を作成している。介護計画の実施状況の記録を基にカンファレンス、モニタリングを実施している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子やケアプラン実施状況など記録されている為、日々の変化がカンファレンス、モニタリングに生かされよいよいケアが提供できるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向、状況に応じ対応を行っている。医療法人併設の為、医療連携も万全であり、ご希望により看取りの生活支援にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長、民生委員、保育園等の日々の生活の中で交流ある。日々の散歩を通じご近所の方々により気軽に声かけ頂いている。なお地域住民の一人として生活しているとの思いで支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入居時にかかりつけ医について家族と相談しており、希望に応じて、かかりつけ医との連携を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常駐しているので常に健康管理や状態変化を報告し対応できる体制にあり気軽に相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供を行い安心して入院治療が出来るように支援している。入院時には、訪問し情報交換を行うようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には入居時に意向を尋ね重度化に伴いその都度話し合いを行っている。ホームで最期まで希望される家族も多く、家族や馴染みの職員の中で最期を迎えられる方も増えてきている。併設病院との協力体制も確保している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応出来るように酸素や吸引器を常備し、また急変時の対応マニュアルを整備している。法人内での研修やグループホーム勉強会時に（AED、心肺蘇生法）の使用法について定期的に行い学ぶ機会を設け実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人独自の地震、水害時の想定したマニュアルがある。年2回火災を想定した訓練を行い、地域の方の参加も見られる。非常食、オムツ、ペーパー類の備蓄も整えている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報同意書を作成し、家族に個人情報に関する対応について承諾を頂いている。一人ひとりの人格を尊重し、生活歴を踏まえ、自尊心を傷つけない対応声掛けを行っている。無理強いしない言葉や態度、不愉快にさせない言葉かけなど、特に心かけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人とゆっくり向き合い話をする時間を大切にし本音や希望を言える雰囲気を作ること又安心してスタッフにわがままを言えるような関係づくりに努めている。スタッフや家族の意見を押しつけず意見が決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを最優先し無理強いせず言葉掛けや見守りで利用者のペースに合わせた支援に努めている。在宅生活の延長でありたいとの思いで支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣を大切に、毎日欠かさずお化粧を続けている方もある。自分で出来なくなった方も家族の思いを大切にスタッフがお化粧をして差し上げている。外出や誕生日等特別な日には、おしゃれをされたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きメニューへ取り入れている。食欲がでる色彩等にも気を使っている。出来る方にはテーブル拭き、お茶入れ、食材の皮むきなど手伝っていただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた量や病状による食事量、味付け等細やかに対応している。食事、水分摂取量の把握に努め、入りが悪いときには、口に合う別メニューを用意したり、飲み物を用意確保している。ミキサーやトロミで対応することもある。状況により栄養士にアドバイスを受けることもある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い一人ひとりに合わせた見守りや介助を行っている。義歯の方は外して磨くように声かけしたり、汚れが落ちているかチェックを行い、上手に出来ない方には、最後に仕上げを行い清潔保持をしている。必要に応じ歯科医の訪問指導を受けられる体制にある。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、本人のサインを見逃さないようにしている。気持ちよい排泄が出来るよう検討している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は乳製品や野菜、食物繊維類、を多く取り入れ水分確保、適度な運動を心がけ便秘予防に努めている。毎日排便チェックを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご利用者様の健康状態を鑑みながら入浴支援を行っている。一人ひとりの季節毎に入浴剤、バラ湯を利用したり、ゆっくり入浴して頂き、コミュニケーションをとるよい時間となっています。汚染時など臨機応変に対応している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は生活習慣や体力に合わせ、レク、散歩などをして過ごして頂き夕食後は就寝へむけての環境作りを心がけ温かい飲み物の提供やゆっくり話を聞いたりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し職員が入居者一人ひとりの内服している薬の変更や臨時薬の処方、処置内容等を記載し情報の共有を行い状態観察をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に情報を頂き料理、裁縫、編み物など得意分野での力を発揮できるように場面作りをしている。外出、ドライブ、散歩にて気分転換している。お茶は、本人希望でコーヒー、紅茶、緑茶などセレクト提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣の公園へ、季節を楽しめるよう外出を行っている。本人希望にて買い物支援も行っていて、顔なじみの方から花など頂くこともある。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持ちたいと希望される方は、居室にて自己管理をしていただいている。バスハイク、外食時には、自分で支払いをされている。買い物の希望があれば、個別に対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は自由に掛けて頂き遠方でなかなか面会できない家族には、定期的に電話を依頼し交流を絶やさないようにしている。年賀状や暑中見舞、ホーム便りを送り近況報告を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには季節の花や季節に合わせた入居者様の作品を飾り、季節感を感じられるようにしている。バルコニーにも季節を感じられるように花を栽培している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはこたつを配置し自由に横になれるような共用空間を作り仲良しの入居者様同士のんびりと過ごせるようにしている。ソファやテラスにもテーブルや椅子を設置しいつでも利用できるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具を持ちこんで頂いたり、家族の写真や季節の花を飾ったりと好みに応じ自由に居室内をアレンジし居心地良く過ごせるように配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面がバリアフリーとなっており廊下には手すりを設置したり、車椅子自走も安全に行えるように十分なスペースも確保している。トイレも出来るだけ自立した生活ができるように配慮している。ADLの変化に合わせ検討するようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない